

# 日本語教員養成課程修了生の学び；コミュニケーション — M-GTA による分析 —

中 川 良 雄

## 〈Summary〉

In Japanese Teacher Training Course of University, we exhaust many graduates every year. However, all the graduates do not take a Japanese teacher and get the social various jobs area.

Various subjects are learned related to Japanese language, education and Japanese culture in the Course, but do the graduates utilize enough knowledge and skills in their present jobs or in their social service?

The Agency for Cultural Affairs reported, in 2000, that we have to place ‘Communication’ as a center of the Japanese Teacher Training program, which shows that ‘Communication’ is the most important of all the contents in the Course. Then what is communication? How do the graduates utilize their communicative skills which they have acquired in the course, in their jobs and in social lives.

We made an interview research for graduates, and analyzed the collected data using M-GTA (Modified Grounded Theory Approach).

The result shows that communication our graduates feel enough gained is

- ① Cross-cultural communication
- ② Communication with other person
- ③ Communication with foreigners

We can conclude that a global talented person with communicative skills is demanded.

## はじめに

大学の日本語教員養成課程の修了生は、日本語教員に就くばかりでなく、社会の様々な職域に就いていく。課程では、日本語学、日本語教育、日本文化関連の学科目を中心に一般教養をも含めた多様な学科目を学ぶが、課程で身に付けた資質や能力を現在の職業にいかにも還元し、社会貢献を果たしているのか。課程のカリキュラムを策定したり、授業科目のシラバスを考えたりする上で、重要な課題となる。

平成12年3月に文化庁・日本語教員の養成に関する調査研究協力者会議が報告した『日本語教育のための教員養成について』では、「日本語教員養成において必要とされる教育内容」として、コミュニケーションを日本語教育の中核として位置付け、コミュニケーションが「社会・文化」「教育」「言語」の3領域から構成され、さらにそれらを、「社会・文化・地域」「言語と社会」「言語と心理」「言語と情報」「言語」の5区分に分類される考えを示している。

大学の日本語教員養成課程では、この「教育内容」に則り、大学独自のカリキュラムに基づく日本語教員の養成が実施されている。

すなわち課程の修了生には、コミュニケーション能力を獲得し、社会に還元していくことが期待されるが、コミュニケーションの中身までは、上記「教育内容」では明らかにされていない。

本稿では、課程の修了生へのインタビューを通じて、課程修了後に課程で身に付けた資質や能力をいかに職業に活かし社会貢献を果たしているか、殊にコミュニケーション能力をいかに活かしているか、分析していく。

分析の方法として、M-GTA（修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ）を用いる。M-GTAとは、「データに密着した分析から独自の理論を生成する3質的研究の方法」（木下、2003a）である。課程の修了生に、どんなコミュニケーション能力が身についたか、明らかにしたい。

本稿は、平成25年度～平成27年度科学研究費補助金研究「日本語教員養成課程修了生の社会貢献とグローバル人材育成に関する構造化研究」（課題番号：25370607、研究代表者：中川良雄）の研究成果の一部公表である。

## 1 日本語教員養成とコミュニケーション

### 1.1 日本語教育の社会貢献

日本語教育の日本社会への貢献として、門倉（2011）は、

日本人のコミュニケーション力の向上に寄与することがあります。地域日本語教室では、そうしたコミュニケーション力が自発的に育っています。そして外国人児童に接する日本人児童にもそれは求められています。

と述べ、日本語教育によって、コミュニケーション能力が伸びることを述べている。今後予想される多文化共生社会の実現のためには、社会の各々が身に付けなければならない能力であると言える。日本語教員養成課程の囚虜末井は、その先陣を切って、地域の国際化や多文化共生社会の実現に寄与できるだけの資質や能力を身に付けていると言っても過言ではない。

### 1.2 日本語教員が考えるコミュニケーション能力

中川（2007）では、日本語教員を対象としたアンケート調査から、日本語教員が考えるコミュニケーション能力について考えた。「コミュニケーション能力とは何か」について、4件法による評定調査を実施したところ、ポイント上位に挙がってきたのは、

- 国際社会の一員としての自覚を持ち、それにふさわしい行動を取る態度・姿勢

- 時と場に応じた適切な文章を書く能力
- 適切な挨拶表現を使用する能力
- 他者に配慮した言動が取れる態度・姿勢
- 異文化や習慣を理解し、不適切な言動を取らないような態度・姿勢
- 推論したり、さまざまな情報を関連付けたりしながら言語を使う能力
- コミュニケーション上起こるトラブル（誤解等）への対処能力

というように、平均値の高い上位7項目のうち4項目が「社会文化能力」である。このことは、日本語教員養成課程において養成が比較的容易であると考えられるものである。「時と場に応じた適切な文章を書く能力」や「推論したり、さまざまな情報を関連付けたりしながら言語を使う能力」が高ポイントを示すのは、大学の日本語教員ならではの評価であろう。

すなわちここで挙がってきた「コミュニケーション能力」とは、日本語教員に求められるものであったとしても、課程の主たる目的が日本語教員の養成にあるのなら、課程で養成されるべき能力であると考えてよい。

### 1.3 課程修了生はどんな能力を身に付けたか（アンケート調査より）

課程で学んだ学科目が現在の職業にいかにか活かされているかを知るため、中川（2013a）では質問紙アンケート調査を実施した。

『日本語教員養成において必要とされる教育内容』（2000）について、日本語教員養成課程修了者を対象に、どの程度「役に立っているか」を問うたところ、もっとも「役に立っている」と感じる上位学科目は、「コミュニケーション」や「異文化理解・受容」「教材分析」「教授法」などといった、いわば日本語教員養成に必須の学科目であることが明らかになった。

すなわち課程修了後、日本語教員い就くにせよ就かぬにせよ、上記学科目が様々な職域で活かされることが期待されている。

### 1.4 もっとも役立っている学科目（記述式アンケート）

中川（2014）では、アンケート記述回答の結果を次のようにまとめた。

日本語教員養成の学科目のうち、もっとも役に立っていると感じるのは、

- ① 日本語教育実習・実践 ⇒人に伝えることを学ぶ
- ② 日本語教授法
- ③ 音声学・音韻論
- ④ 異文化理解・異文化（多文化）コミュニケーション
- ⑤ 日本語学・日本語文法

である。すなわち、課程の教育内容の中心となる「日本語文法」や「日本語教授法」などの学科目と並んで、コミュニケーション、異文化コミュニケーションも、重要な知識・能力として課程の修了生に体得されていることが明らかになる。

## 2 グラウンデッド・セオリー・アプローチ

### 2.1 (オリジナル版) グラウンデッド・セオリー・アプローチ

グラウンデッド・セオリー・アプローチ (Grounded Theory Approach, 以下 GTA とする) は、A. ストラウス, B. グレーザーによって 1967 年に案出された質的調査の科学的方法論である。データに根差した理論の形成を目指した方法論で、データ収集をいかに深く行うか、そしてそのデータに基づいて (Grounded on data), いかに理論化していくかが重要となる。看護, 保健, ソーシャルワーク, 介護, リハビリテーション, 臨床心理学等のヒューマン・サービスの領域を中心に応用が広がりつつある質的研究の代表格である。

GTA の中心技法は次の通りである。

まず調査者は、できるだけ受け身で相手 (調査協力者) に語らせる (ナラティブ)。収集した情報を単一の内容ことに分解 (切片化) し、ラベルを付ける (ラベル付与)。各切片では、個別情報の背景等を構成する要素 (プロパティ) を見つけ、要素ごとに当該情報が持つ性格 (ディメンション) を明示する。ディメンションが変化した場合の変化 (パターン) を検討するために新たな観察対象を設定する。そしてラベルをグループ化して、共通する理論を見つけ出していく、という流れである。

### 2.2 修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ

上記 GTA には、数々の解釈があり、修正版が提出されている。ここでは、その一つ、木下康仁 (2007) による修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ (Modified Grounded Theory Approach, 以下 M-GTA とする) を紹介したい。

M-GTA は、上記 A. ストラウス, B. グレーザーの考えを踏襲しつつも、その可能性を実践しやすいように改良された質的研究法 (木下, 2003) で、質的研究とは、質的データを用いた研究で、質的データとは、当該の研究テーマに関して豊富なデータであることと規定される。データの解釈から説明力のある概念の生成を行い、そうした概念の関連性を高め、まとまりのある理論を作る方法である。つまり分析とは、データの意味の解釈であり、いくつか考えられる意味可能性の中からどれかを選択し、その作業を関連付けながら継続していく方法である (木下, 2003 など)。

M-GTA では、分析テーマと分析焦点者 (調査協力者) からデータを見ていき、データのある部分に着目する。そしてなぜその部分に着目したのかを考える。それが解釈の始まりである。ここで重要なのは、その部分の意味を検討するだけでなく、類似例の可能性についても考えることである。

そのため M-GTA では、GTA とは異なり、情報の切片化は行わず、収集したデータそのものを対象として、深く観察することを重視する。ラベル化された切片を扱うのではなく、「研究する人間」を扱うことに M-GTA の特性がある。

着目したデータは、データ・ワークシートに記入し、「概念名」と「提議」を付ける。他のデータから関連情報（バリエーション）を見つけ出し、同一のワークシートに記入していく（付ワークシート参照）。この作業中に気付いたことがあれば、メモとして残し、次の作業の参考とする。この作業を継続することにより、「概念」から「概念」を生み出し、テーマに即した共通概念が創出される。

M-GTAの研究対象は、あくまでも人間であり、その研究領域が看護や教育、臨床心理学などのヒューマン・サービスの分野に広がりつつあるのは、至極自然な論理である。

本稿では、木下（2003 など）が考案した M-GTA を用いて、インタビュー・データを分析する。

### 3 調査方法

#### 3.1 調査協力者

今回分析対象としたのは、次の 10 名（A～J）のインタビュー・データである。

10 名を対象に 30 分～60 分程度の対面式インタビュー調査を実施し、録音したデータ（音声データ）を、文字化（文字データ）して使用した。

調査協力者 A	K 大学日本語教員養成課程（主専攻）2009 年 3 月卒業 修了後の職業：進学塾事務職員
調査協力者 B	K 大学日本語教員余末井課程（主専攻）2010 年 9 月修了 修了後の職業：日本語学校日本語講師を経て、2014 年 9 月から国際交流基金 日本語パートナーズとしてインドネシア勤務 備考：学部時代オランダへ 1 年留学
調査協力者 C	K 大学日本語教員養成課程（主専攻）2013 年 3 月修了 修了後の職業：日本語学校講師
調査協力者 D	K 大学日本語教員養成課程（主専攻）2009 年 3 月修了 修了後の職業：タイ国の大学日本語講師、国内日本語学校講師を経て、現在 高等学校国語講師 備考：学部時代、中国へ 1 年間留学
調査協力者 E	K 大学日本語教員養成課程（主専攻）2009 年 3 月修了 修了後の職業：タイ国大学日本語講師、国際交流基金派遣ベトナム日本語講 師
調査協力者 F	K 大学日本語教員養成課程（主専攻）2008 年 3 月修了 修了後の職業：タイ国にて日本語講師を経て、現在国内の大学、専門学校等 で非常勤講師 備考：専門学校から K 大学へ編入学
調査協力者 G	R 大学日本語教員余末井課程（副専攻）19984 年 3 月修了 修了後の職業：地方公務員 備考：ボランティア日本語教室に参加、そこで知り合った中国人と結婚

調査協力者 H	K 大学日本語教員養成課程（主専攻）2005 年 9 月修了 修了後の職業：日本語学校講師 備考：学部時代にオランダへ 1 年留学
調査協力者 I	K 大学日本語教員養成課程（主専攻）2005 年 3 月修了 修了後の職業：日本語学校事務職員を経て、現在大学事務職員
調査協力者 J	K 大学日本語教員余末井課程（主専攻）2005 年 3 月修了 修了後の職業：メキシコ国日本語学校講師を経て、現在 NPO 邦人職員（小学校での日本語授業担当）

### 3.2 調査内容

調査者と調査協力者が対面し、半構造化インタビューを実施した。まず調査の趣旨（個人情報に侵害する恐れのないこと、研究以外の目的で使用するのではないこと等）を誌面で伝え、了解を得た。

調査内容は、次の通りである。

#### 【インタビュー項目】

- ① 調査に関する質問
- ② 日本語教員養成課程を選んだ理由
- ③ 当初の期待と同じだったか。
- ④ どんな学科目に精出したか。それはなぜか。
- ⑤ なぜ現在の職業を選んだか。
- ⑥ 大学で学んだ学科目が現在の職業に活かされているか。
- ⑦ 課程の修了生は、どんな社会貢献が可能だと思うか。現在どんな社会貢献ができていると思うか。
- ⑧ 課程の修了生は、グローバル人材として活躍できると思うか。
- ⑨ 日本語教員養成課程で学んだことが、今後あなたの生活でどう活かされていくか。

## 4 インタビューの分析

本調査は、日本語教員養成課程において獲得の目指される「コミュニケーション」の中身に就いて知ることにある。今回の調査から、日本語教員養成課程の修了生が実際に身に付いたと感じ、現在の職業や社会生活で活かされていると感じる「コミュニケーション」は、異文化コミュニケーション、対人コミュニケーション、外国人とのコミュニケーションであると思われる。

以下では、その各々について、今回のインタビュー調査から抽出された「コミュニケーション」の中身について分析する。

#### 4.1 異文化コミュニケーション（データ番号①）

日本語教員養成課程で学び始めた学生にとって、最初の異文化接触は、クラスの外国人留学生とのコミュニケーションであることが多い。

クラスの中には絶えず外国人がいて、外国人が日本の文化や慣習を学ぶだけでなく、外国人からの考え方やこれまでの自分の価値観とは異なった考えを持つ人のいることを学ぶ（調査協力者 E）。そうした外国人と接することによって、そのクラスメイト以外のその国の人と出会った場合の対処法を知ることができる（調査協力者 D）。

こうした外国人との接触は、外国や外国人に対する壁を低くし（調査協力者 H）、視野を広げる役割を果たす（調査協力者 I）。

課程で培った知見や世界観は、課程修了後も継続され、人間関係の構築に役立つ（調査協力者 D）。

そもそも課程に入る前から、留学経験や語学が好きだったり、異文化に対する目は開かれていたことが多い。

#### 4.2 対人コミュニケーション（データ番号②③④）

日本語教員養成課程の修了生が、課程修了後身をもって実感できるのは、「話し方が上手になった」ということである。日本語教員に就かずとも、修了生に求められる技能として筆頭に挙げられるものであろう（調査協力者 A）。また近隣の人たちとのコミュニケーションも、目に見えざる能力として評価が高い（調査協力者 C）。

また偏見や先入観をなくすという姿勢は、課程で外国人とともに学んだ証として注目される（調査協力者 H）。

1.2（中川，2007）では、日本語教員に求められる能力として、「適切な挨拶表現を使用する能力」「他者に配慮した言動が取れる態度・姿勢」を挙げたが、日本語教員に限らず万人に求めたい能力である。

このようにしてコミュニケーションじょうずになると、積極的な態度へと変身し、自己認識力が高まる。結果として他者救済の手を差し伸べたり、積極的な働きかけ行動へと進展したりすることになるが、他者の受け入れも上手になる（調査協力者 F・H）。

#### 4.3 外国人とのコミュニケーション（データ番号⑤⑥⑦⑧）

日本語教員養成課程の学生の多くは、語学が好きであったり、高校時代などに留学経験を持ったりすることが多い。大学（課程）に入っても、語学を学ぶことによって、学習者との距離が短くなり、親しみやすくなる。また日本語教員に就いた場合には、その語学が学習者の誤用を見つけたり、学習者の理解が容易になったり、また自分の学習経験が教授場面で役立つことが多い（調査協力者 B・D）。すると学習すべき外国語は、英語一辺倒ではなく、中国語や韓国語、ポルトガル語などが有用となる。

外国人とのコミュニケーションで重要なのは、ただ「ゆっくりはっきり話す」というだけではなく、学習者個人にとって「何が難しく何がやさしいのか」しっかり認識し、フォロナートークの技法を身に付けることである（調査協力者 C・F・H）。

この技法は、日本語教員養成課程の学生に求められるコミュニケーション・スキルであるが、ではいつその技法は獲得されたのか。課程での教壇実習経験や、これまでに述べてきた外国人学生との教室内外でのコミュニケーション、そして理論化された学問として日本語教育を学ぶことにより、強固なものとなったと言える。

日本語教員に就いた者はもちろん、今後日本がますますの多文化共生社会へと向かうことを想定すると、必要な能力として身に付けておきたい。

課程の修了生の就職先は多岐に渡るが、例えば地方行員や公共団体に就職した場合には、相談窓口として活躍が期待されるし、地域社会においてもよきアドバイザーとしての活躍も見込まれる（調査協力者 G）。

## おわりに

日本語教員養成課程の主要な学科目としてコミュニケーションがある。すなわちコミュニケーション能力を身に付けた課程の修了生が、日本語教員として活躍することはもとより、社会の様々な職域で活躍していくことが期待されている。

これまでコミュニケーションやコミュニケーション能力の獲得が重要であることは、しばしば強調されてきた。しかしそのコミュニケーションの中身や課程の修了生が身に付けたコミュニケーション能力を社会にいかにか還元しているかについては触れられないことがない。

本稿では、課程の修了生へのインタビュー調査を通じて、修了生がどんな資質や能力を身に付けたか、直接意見を聴取することによって、理論の生成を試みた。分析方法として、M-GTAを用いたが、まさに人間を対象としたヒューマン・サイエンスであり、適切な分析と議論が展開できたものと思われる。

コミュニケーション能力の獲得は、目に見えて向上したとか、スケールで測れるものではなく、目に見えざるものであり、人間的成長を通じて、実感されるものであろう。

今回のインタビュー調査では、修了生が普段は意識することのないコミュニケーション能力について、自己認識を高め、内省を深めることができた。

こうしたコミュニケーション能力を備えた人物こそが、グローバル人材として活躍し、社会貢献を果たしていくことが期待される。

## 参考文献

- 門倉正美 (2011) 「日本語教育の社会貢献とは？」  
[http://www.intercultural.jp/seminar/sympo\\_111123-p1-1.pdf](http://www.intercultural.jp/seminar/sympo_111123-p1-1.pdf)
- 木下康仁 (2003a) 『グラウンデッド・セオリー・アプローチ 質的実証研究の再生』 弘文堂。
- (2003b) 『グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践 質的研究への誘い』 弘文堂。
- (2007a) 『ライブ講義 M-GYA 実践的質的研究法 修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチのすべて』 弘文堂。
- (2007b) 「グラウンデッド・セオリー・アプローチ (M-GTA) の分析技法」『富山大学看護学会誌』 第 6 卷 2 号, 富山大学, pp. 1-10.
- 戈木グレイグセル滋子 (2000) 『グラウンデッド・セオリー・アプローチ』 新曜社。
- (2008) 『実践グラウンデッド・セオリー・アプローチ』 新曜車。
- 中川良雄 (2007) 「日本語教員が考える日本語コミュニケーション能力 — 大学の日本語教員の場合 —」『研究論叢』 京都外国語大学, pp. 158-174.
- (2009) 『「求められる日本語教員に日本語教員養成課程はどう応えるか」に関する総合的研究』 (平成 18 年度～平成 20 年度科学研究費補助金基盤研究 (B)) (課題番号: 18320084, 研究代表者: 中川良雄) 研究成果報告書)。
- (2013) 「日本語教員養成課程修了生の日本語教育の受容と変容」『研究論叢』 第 80 号, 京都外国語大学, pp. 151-162。
- 文化庁・日本語教員の養成に関する調査研究協力者会議 (2000) 『日本語教育のための教員養成について』。
- 文部省学術国際局 (1985) 「日本語教員の養成等について」 文学教 156 号。

## 【付 ワークシート】

データ番号	①
概念名	異文化コミュニケーション
定義	異文化を学ぶ環境が整っている
バリエーション (具体例)	<p>調査協力者：同じクラスで、いろんな外国の方と一緒に勉強できるというのはやっぱり、自分がいちばん最初に外国人と接するところ、なんと言っているのかね、長く付き合う中で、そこでいろいろ気を遣ったり考えたりすることはありました。その国の人の文化とか、腹立つことだってありましたし、特に自分がその国の人と出会った時に、どういう風に対応していくのがすごく勉強になりました。(調査協力者 D)</p>
	<p>調査協力者：そうですね。人間関係は大きいと思います。私の隣の先生も前の先生も外国の方なので、うーん、そういうことはどうですかという意見を聞かれても、日本人として考えられますし、やっぱり対人関係ということは役立ったと思います。(調査協力者 D)</p>
	<p>調査者：いやな思いをすることもありますが。</p> <p>調査協力者：はい。別にそれは、その国の考え方であるなら仕方ないですし、逆に日本の考えを押し付けるのもよくないですし。</p> <p>調査者：どっちが悪いというわけでもないし、おっちがいいというわけでもない。そういうような考えが分かってきた。それはやっぱりいっしょに学んだというのが大きいんじゃないかな。</p> <p>調査協力者：はい、そうです。(調査協力者 E)</p>
	<p>調査協力者：そうですね、あの一、日本人が日本語を学ぶ、日本を学ぶということで、ある種、自分の国のことを外から見るといって、それを発信できるチャンスもきつと、あの一、例えば外国語大学に行かなかった、例えばN大学とか、外国語に関係のない学部の方からしたら、外大生ってきつと世界に対する、なんだろうかな、壁があまり高くないといつか、わりとフラットにフランクにいろんな外国の人と接することが苦ではないと思うので、日本語教師の職に就いていなかったとしても、4年間勉強したことで、例えばコミュニケーション取ったときに、外国から見えてるちょっとした誤解とか、古い知識とかを、まあ、かみ砕いてじょうずに言うことはできるのかなとは思っています。</p> <p>調査者：なるほどね。外大という狭い空間の中で、外国人と接する機会って、非常に多いですね。</p> <p>調査者：自然とそういう目が身についたといつか。(調査協力者 H)</p>
	<p>調査協力者：そうですね。日本語教師やってると、やっぱり、学習者はいろんな立場の人がいるので、すごくいろんな情報が教室の中に溢れているので、そういった意味で、いろんなことが外大で勉強できたということは、いろんなことに視野を向けるということなので、そういう意識が身についたと思います。</p> <p>調査者：隣にはね、隣に座っている人は外国人というのが普通の状態だったわけですよね。</p> <p>調査協力者：そうですね。</p> <p>調査者：それが、現在の職業にかなり結びついているような気がします。</p> <p>調査協力者：そうですね。(調査協力者 I)</p>
理論的メモ	課程に入ったのは、異文化摂取や異文化交流に興味があったのか。

データ番号	②
概念名	対人コミュニケーション1
定義	話し方がじょうずになる
バリエーション (具体例)	<p>被調査者：えー、コミュニケーション能力が伸びたと思います。          調査者：例を挙げて教えていただけませんか。          被調査者：塾ではよく、父兄の方と電話で話したり、生徒はもちろんですが、対応なんかするときに、対応がいいと言われることがあります。他には、生徒に進学相談をするときにも、話がよく分かれると言われます。そんな時に、ただ話すだけではなく、おもてなしというか、人との接し方が上手になったような気がします。(調査協力者A)</p> <p>調査協力者：なんか大学のときよりも、周りと主に両親とか、親戚とか、自分の小さい時から知っている人によく言われるようになったのは、周りへの気遣いや配慮が昔に比べてできるようになった。(調査協力者C)</p>
理論的メモ	話し方が上手になると、仕事展開がスムーズになる。

データ番号	③
概念名	対人コミュニケーション2
定義	偏見や先入観をなくす
バリエーション (具体例)	調査協力者：そうですね。あの一、日本人と話すに当たっても、そうでない人と話すに当たっても、あまり変な先入観を持たないようにになりました。(調査協力者H)
理論的メモ	親しく付き合ってみると、偏見や先入観は払拭される？

データ番号	④
概念名	対人コミュニケーション3
定義	コミュニケーションの上手い人はオーラを出している
バリエーション (具体例)	<p>調査協力者：(前略)外国の人に話しかけられる回数が多くなったというのは、何か自分が変わったのかなと思います。          調査者：あ、そう。          調査協力者：分からないですけど。          調査者：そういうオーラを出しているんですね。          調査協力者：ほかの日本人と違うオーラが出ているのかな。          調査者：この人に聞けば分かりそうだと。          調査協力者：というのはときどき感じます。(調査協力者F)</p> <p>調査協力者：あの一、街中とかで、留学生とか外国人になぜか声をかけられる。          調査者：わかるの、オーラが出てるんですよ。(調査協力者H)</p>
理論的メモ	コミュニケーションがうまいというのは、なぜ分かるのだろうか。

データ番号	⑤
概念名	外国人とのコミュニケーション 1
定義	外国語を学習することで、外国人に親しみを感じる
バリエーション (具体例)	<p>調査協力者：話前後するんですけど、学問的なことと言うと、えっと私は大学時代に中国語を第二外国語として勉強しましたし、あとはちょっとオランダ語も勉強したんですけど、まーそういうものがそんな中で、中国語勉強してすごくよかったと思いました。</p> <p>調査者：どうして。</p> <p>調査協力者：日本語学校が中国人が90%の学校だったので、もちろん中国語は使わないうんですけど、やっぱり学生ともっと近くなれるというか、理解しやすくなって、中国語がちょっとできるというだけで、親しくなれる。(調査協力者 B)</p> <p>調査協力者：自分が学ぶ時と教える時の比較をしながら考えますし、今も JSL の子供たちに教えているので、その母国語からの転移というのは考えたりするのに必要かなってのはありますね。なので自分の外国語学習っていうのは欠かせないものだなと思います。(調査協力者 D)</p>
理論的メモ	学習すべき外国語は英語なのか、それとも他の外国語なのか。

データ番号	⑥
概念名	外国人とのコミュニケーション 2
定義	フォリナートーク
バリエーション (具体例)	<p>調査協力者：(前略) アルバイトをやっているときに、一年ぐらいコンビニでアルバイトをやって、ちょうど早稲田大学の近くで外国人の学生が来て、買い物していったりというのがあって、日本語もそれなりに話せる人も来るんですが、日本語が分からない話せなくて、自分の国の言葉だったり英語を言わないと、おつりにしても合計がいくらにしても、こんな商品を探しているんだというのにしても、最初は戸惑いましたけど、日々学生をいろんな国の学生を相手にしているうちに、この人はこれが分からないんだ、日本語もこのレベルまでは分かる、行けれども、この先聞いたら分からなくなるんだったら、外国人のお客さん一人ひとりの対応力も上がったんじゃないかなと思います。(調査協力者 C)</p> <p>調査者：やさしい日本語で伝えることができる。</p> <p>調査協力者：つい話してしまうことがありますね。</p> <p>調査者：それが日本語教師の経験知というか、体が反応しているんですね。</p> <p>調査協力者：ついこう出てしまった、変な日本語しゃべってしまったと思いながら。</p> <p>調査者：それでもまあ伝わったからいいや。(調査協力者 F)</p> <p>調査協力者：(前略) 外国人にとっては分かりやすいけれども、日本人に対して回りくどいかもしれない。最後まで言わない美徳を、もしかしたら言い過ぎている部分が自分自身あるのかもしれないので、そこはなかなか確認できないんですけども、声の出し方が自分自身ちょっとずつ変わってきているのを感じますね。(調査協力者 F)</p> <p>調査協力者：そうですね。うん。あの一、はい。それは付いていると思います。話し方の問題もそうなんですけど、一般的な方が外国人に日本語が拙い人にゆっくりはつきり話すだけではもちろん通じないですすし、私の教えた学習者を企業の方がお迎えに来られて、そういうような話で話しかけているのを見ると、それは彼らには分からないだろうというそういうことがよくあるので、この仕事に就いていなくても、町で困っている人とか、という意味では役に立てると思います。(調査協力者 H)</p>
理論的メモ	このスキルはいつ獲得されたのか。

データ番号	⑦
概念名	外国人とのコミュニケーション3
定義	コミュニケーション・ストラテジー
バリエーション (具体例)	<p>調査者：コミュニケーションがうまくなったりとか。外国人とのコミュニケーションに慣れている。</p> <p>調査協力者：この人はたぶんこういうことを言いたいんだろうなというのが分かったり。</p> <p>調査者：分かりやすい。例えば誤用を犯しても、この誤用はなんとかだから。</p> <p>調査協力者：こういうことが言いたいんだ。</p> <p>調査者：ということが分かるかもしれませんがね。日本語教師ってのは、一番それを知ってるわけですけども。そういう経験を積んでるわけですからね。絶えず外国人が隣にいて。</p> <p>調査協力者：そうですね、(中略)</p> <p>調査協力者：そうですね。ときどき外で外国の人に質問、普通に町ですれ違った外国の人に質問された時の自分の返し方が日本人じゃないなと思うことがありますけれども。(調査協力者F)</p>
理論的メモ	日本人同士のコミュニケーションと、外国人とのコミュニケーションとでは、展開の仕方が異なる。

データ番号	⑧
概念名	外国人とのコミュニケーション4
定義	外国人の相談窓口になれる
バリエーション (具体例)	<p>調査協力者：でもほとんどが直接は相談になるってことはなかったもので、施策を考えたりするときに、あの一、そういう言葉が分からないから困っているのはもちろんあるんですけど、言葉が分かっても、やっぱりそのコミュニティーに入りにくいとか、そういう問題を抱えている子が結構いるというのを、思ってたので、はい、あまり活かせていなかったかもしれないけど、……(調査協力者G)</p>
理論的メモ	課程在学時には、課程での学ぶ学科目がどんな場面で役立つか認識が薄い。

